

内定者からのMESSAGE

学科での学びや体験を活かし、新たな活躍の場へと進んだ先輩たち。企業研究を通して自分でも気づかなかった適性を見つけることにつながったり、ゼミナールで培ったコミュニケーション能力を活かすなど、内定に結びついた理由や道筋は、それぞれに異なります。内定を勝ち得た先輩方の生の声をぜひ参考にしてください。

内定先 川崎市役所

4年 生井 萌香 さん

大切なのは、就職先と自分を深く知ること

就職希望先の研究をしっかりと行うことが内定獲得のコツだと思います。私の第一志望は川崎市役所でした。そのため、説明会に何度も参加し、川崎市役所が注力している取り組みを明確に把握するよう努めました。それを参考に、川崎市役所で取り組みたい仕事を見つけました。加えて、自己アピールや学生時代頑張ったことを言葉にまとめることも重要です。そのために、学生生活に取り組むこと全てにおいて自分で考え行動すべきだと思います。そうすることで、ES(エントリーシート)や面接も充実した内容になります。

全ての人にサービスを提供できる仕事を目指して

大学1年生の時から漠然と公務員を目指していました。遊園地でアルバイトしていた頃にテレビで生活保護の特集を見て、遊園地どころか生活必需品の購入すらままならない人がいる現実を知りました。そこで、対価を払った人だけでなく全ての人にサービスを提供できる職業、という点から真剣に公務員を目指し始め、公務員の中でも地域の人々と直接話す機会が多い市役所で働きたいと考えました。さらに、説明会で魅力を感じた事業があり、その仕事に就きたいと考え川崎市役所を選びました。

目標は「いつでも助け合えるまちづくり」

地域包括ケアシステムに関する仕事に取り組みたいです。理由は説明会に参加した際、地域包括ケアシステムの1つである寺子屋事業に魅力を感じたからです。また、川崎市役所は助け合いの仕組みに基づいた地域包括ケアシステムに取り組んでいます。そこで、私は川崎市職員として「いつでも助け合えるまち」を実現したいと考えています。そうすることで、近年問題となっている住民同士の関係の希薄化が改善され、普段の生活だけでなく災害時においても助け合える街を実現できると思います。そのために、市民の皆様へ寄り添うことができる職員をめざし、仕事に取り組みたいです。

内定先 大和ハウス工業株式会社

4年 佐藤 隼介 さん

正解は無いからこそ、自分に合った方法で

内定獲得のコツは、自分自身を知ることだと思います。それは自分を振り返る「自己分析」に限られません。面接では笑顔や挨拶など当たり前のことはもちろん大切ですが、自分に合った就職活動のスタイルや、自分の経験を上手く伝える方法を知ることが重要です。就職活動に正解はなく、自分に合うやり方を理解できているかが鍵となります。また、ゼミナールで培ったディスカッション力、プレゼン力、情報収集力、留学で培ったチャレンジ精神、コミュニケーション能力なども役立ちました。

まずは聞いて書いて、徐々にやりたいことを絞っていく

私は合同説明会に参加して様々な業界の話聞くことから始めました。また、インターンシップに多くエントリーしてESを書くことを意識しました。自分の頭の中を文字に起こすことで、自分のやってみたいことや自分の力を活かせるフィールドが分かり少しずつ絞ることができました。その中でも「お客様と最も近い営業職でチャレンジしたい」「生活の根本であるインフラや街づくりという観点を世界規模で将来を見据えて変えていきたい」という2つの観点から内定先に決めました。

自分の強みを活かしつつ、人や社会の役に立ちたい

新型コロナウイルス感染拡大を契機に世界は常に変化しています。さらに、SDGsが広まってきたことで世界で環境問題などの関心が高まっています。これらを踏まえて、時代に臨機応変に対応していくことが求められると思います。そこに自分の強みであるコミュニケーション能力に加えて、社会に価値を提供できればと考えています。また、営業職としてお客様に対して責任を持たなければならないので、努力を続けようと思います。そして、専門知識の勉強や営業スキルのレベルアップを続けること、営業職として人や社会のために役立つことのできる社会人を目指したいです。

